

新型コロナウイルスの影響は悪いことばかりではありません。新型コロナの感染が拡大して以来、1か所に集まった研修会等はことごとく中止になってしまいましたが、代わってオンラインでのリモート研修の場が増えました。このことにより、これまで遠方でなかなか参加することができなかった著名な先生の研修も受講できる機会が増え、学びの場が広がっているのです。

私は、8月、9月とNHK『すくすく子育て』等にも出演されている汐見稔幸先生のオンライン講座を受講しました。

講座の内容は「保育を原理から考え直す」という専門的なことなので、多くは書きませんが、ぜひともみなさまにもご紹介したい内容がありましたので、それを今回はご紹介したいと思います。「子どもの表現と平和」についてです。

そもそも表現とはなにか？

見たり、聞いたり、触ったり、様々な情報に対して、最初にその人なりの「価値判断」をして、「反応」を返します。その「価値判断」と「反応」は、一人ひとり異なり、それが「個性の由来」でもあります。その反応は即座のものから習慣的なもの、そして洗練されたものまでさまざまであり、それらを「表現」といいます。

たとえば、壁に飾ってある絵を見て、まったく気にならない人もいれば、「あ、すてきな絵！」「きれいな色！」など、見たものに対して、「素敵」と感じたり、「きれい」と感じたり、人によっては、「なつかしい」とか、あるいは、「私はこの絵、暗いから好きじゃない」などなど…。

もっとわかりやすい例えだと、男の子がカブトムシを見つけて、「うわ！かっこいい！」と、とっさに手を伸ばして捕まえようとする。あるいは、虫嫌いな大人がカブトムシを見つけて、「キャッ！、気持ち悪い」と、その場から逃げるなど、同じカブトムシと出会った場面でも、まったく違う価値判断、反応を示す姿が容易に想像つきますね。

出会った対象物に対して、どう感じるかは、その人の個性でもあり、それに対する反応も様々です。反応の仕方には、この例のようにとっさに示すものから、じっくりと観察して、カブトムシの絵を描いたり、粘土で作ったり、あるいは、カブトムシの詩をつくったり、歌をうたったりと、言葉だけでなく、絵や造形、踊り、詩や歌、ありとあらゆる方法で表されることがあります。これらすべてが「表現」です。

さて、これまでの園便り等でもしばしば登場してきた「イタリアのレッジョ・エミリアでの保育実践」。子どもたちの豊かな表現が世界的に注目されて久しくなります。レッジョでは、子どもたちに芸術的なセンスを養い、子どもたちから生まれるさまざまな発想をとても大事にし、物と物との関係性でまわりの世界(環境)を捉えさせようとするなど、表現活動を中心に据えた保育実践であることはなんとなく私も感じていました。

わが園の食事ルームにも掲示していますが、ローリス・マラグッツィの『子どもたちの100の言葉』という詩にも表されているように、言葉だけではない、すべての人にはその人ならではの表現があり、100万人いたら、100万通りの表現があるということ、レッジョでは子どもの頃から気付かせようとしています。

レッジョの保育実践は、「表現は個性であり、尊厳である」という人間観(子ども観)に基づいて行われています。こうした考えは、おそらく今日の日本で多くの早期教育を行っている人たちが抱いている「子どもは未成熟な存在だから、大人に比べて能力が低い。だから、ちいさな時からいろんなものを訓練していかなければ…」というような教育観(保育観)とは大きく異なります。

ヨチヨチ歩きの子どものを見たときに、「これから歩くようになる第一段階だから、もっといっぱい練習させなきゃ」と見るのか、「足腰がまだ十分育ってないのに、必死になって歩こうとしている(これもその子なりの一つの表現)、すごいよね〜！」と見るか…。「発達」というのは、「その子がその子の今を満喫し、次のステップに自らか向かおうとする様のこと」をいうのであり、大人が子どもを訓練して上に引き上げることではないのです。

このようなレッジョの保育の思想の根本を辿っていくと、小さな時から、「さまざまな表現(違い)が、あるのが当たり前」「大人の価値観を押し付けない」という感覚、そして、自由な表現がさらに生まれてくるように様々な手法で促す。さらに、そうした多様な表現を受け取る側も、上下に優劣をつけて見るのではなく、横並びにして、いろんな表現の違いを楽しむ。むしろ、そうした違いを「豊か」と感じる。そこに本当の「平和」があると考えているというのです。ここが今回の講座を受講してとても印象深かったことです。

つまり、レッジョの保育実践の根本の思想は、「さまざまな違い(あらゆる表現)を豊かと感じられること、そしてそれらを楽しみながら受け入れることができれば、戦争をおこすような大人にはならない」ということ。つまり、保育・教育の究極の願いが「平和」だということです。

またひとつ保育・教育の奥深さを感じました。こうしたオンラインでのリモート講座も活用しながら、今後も学びを深めていきたいと思っています。(※ 汐見先生の講座を聞いて、私なりに感じたこと、補足説明を加えたりして要約していますので、汐見先生の本意ではないかもしれません。)